

【重点目標】自ら考え、学び、成長する、いきいきとした子ども



雨紛つ子

学校だより

令和7年度

第7号

令和7年11月28日

心のコップ

校長 佐藤 純一

先日のこと。本校でもインフルエンザに罹患した子どもや教職員が複数欠席し、全校児童8名の極小規模校がさらに一回り小さく、全校児童3名の極々小規模校になってしまった時期がありました。新聞や報道によると、過去20年間で2番目に早い流行とかで、どうやらこの夏のあの猛暑による夏バテや免疫低下も原因の一つらしいとのこと。全校3名の日が何日か続きましたが、不思議と学校に悲壮感というか寂れた雰囲気はなく、「(教室に自分一人しかいない)さみしい朝の会を始めます!」と、この状況をネタにしたり、「早くみんな元気に学校に来るといいねー。」と友達の容態を気遣ったりしながら、毎日を過ごしていました。



人が前向きに生きていくための心構えを、小さなコップを用いて説明する「人生の生き方の実験®」を自ら考案し、福島県内の学校で実演されているのが、福島市・アポロガス会長の篠木雄司さんです。震災という大変な境遇にあっても前向きに生きていくことの大切さを、実際に福島の人たちが前向きに生きていることを伝える「生き方のインフラ教育®」として様々な学校で披露され、今では全国各地の企業や教育機関でも講演されています。「心のコップ」とは、心の状態を“コップ”に例えたもので、人生や人間関係における受け入れ方・満たし方を示した比喩です。コップの向きや中身によって、学びや愛情、承認をどのように受け取り、人生をどう変えていくかが決まると言えます。

※出典：情報誌「戦略経営者」2019年12月号(TKCG)より一部抜粋引用

さて、過日の三者協議会や本日の参観日では、学校・家庭・地域、三者共通の思い・願いを基につくられた今年度目指す子どもの姿「自ら考え、学び、成長する、いきいきとした子ども」について、ここまで振り返りとともに、子どもたちの現状や課題から見えた必要な力について話をさせていただきました。

「心のコップ」の向きを上向きにするには、子どもに伴走・支援する学校はもちろん、家庭・地域の協働が必要不可欠です。三者それぞれの立場から、子どもたちの心のコップに知識や愛情、承認などを注ぐことができる、そんな活動を、新年度は目指していきたいと思います。

★心のコップの基本イメージ

①心の中に見えないコップがある

誰もが心の中に「コップ」を持っていて、そこに水=知識や愛情、承認などが注がれる。

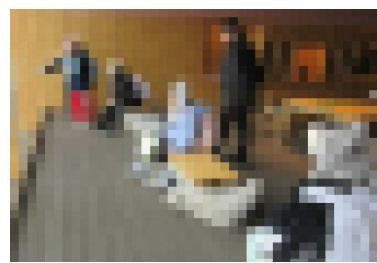
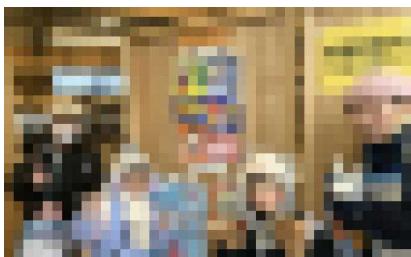
②向きが大事

コップが上向きなら素直に学びや愛を受け取れる。下向きなら拒絶してしまい、成長や幸福が妨げられる。

③中身の状態が人生に影響する

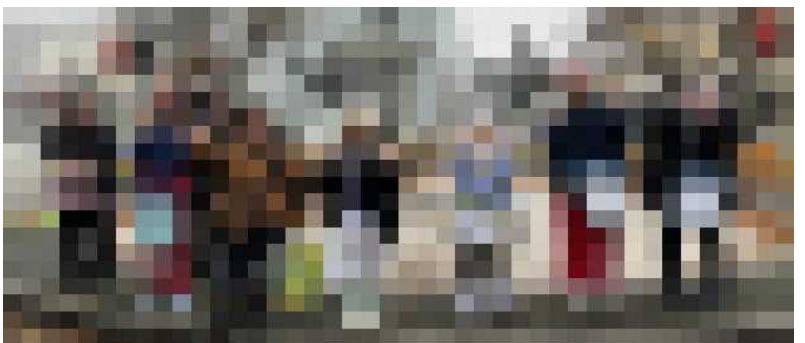
愛や承認で満たされると前向きで寛容になる。逆に空っぽだと批判的で不満がちになりやすい。

校外体験学習



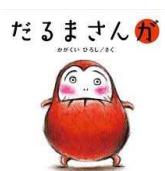
訪問先

「お菓子にちりん」「旭川市役所」
「旭川市中央図書館」「北海道立旭川美術館」にお世話になりました。



本の読み聞かせ活動

11/19に「神居東お話の会」、「高学年」による読み聞かせが行われました。お話の会からは美術館でも見た「かがくいひろし」の絵本、高学年は「ヘンゼルとグレーテル」「そうじ機の中のボンボン」「ねこのようしょくやさん」という内容でした。高学年が、声色や声量、間など工夫して発表し、クイズもあってとても楽しい会になりました。お話の会の方も「読むことも、もちろん、たくさんの感想発表があってスゴイ！」と褒めてくれました。



クリスマス会！！（市民委員会主催）

期 日 12/24（水） 13:10受付
内 容 ・輪投げゲームなど（児童用）
・サッカーゲーム、座布団取りゲーム
(大人用)

■地域の方で参加希望の方は、
町内の市民委員まで。



～12月行事予定～

- 11日（木）ふれ合い子育て協議会②
- 12日（金）神居東小との学習交流会②
- 18日（木）自動車文庫
- 22日（月）諸費納入日
- 24日（水）クリスマス会
- 25日（木）2学期終業式